

市議の定数・報酬削減を

生駒の市民団体 市選管に署名提出

生駒市議の定数と報酬を直接請求で削減することを目指す市民団体「見張り番・生駒」（阪口保代表幹事）は19日、1カ月間で集めた7272人分の署名を市選管に提出

した。市選管の審査で有権者の50分の1に当たる19915人（9月2日現在）以上の署名があれば、条例改正の本請求をする。阪口代表幹事は「審査で減ったとしても、規

定の数は十分クリアできる」と自信をみせている。

見張り番は7月に実施した市民アンケートなどをもとに、定数を24から6減の18に、月額約57万円の報酬は30%削減を目指している。9月16日に署名活動に乗り出し、近鉄生駒駅などで街頭署名を続ける一方、121人の受任者が会員の知人らのネットワークを活用して運動を広げてきた。

署名は市選管が20日以内に審査。規定を上回る数がある

ば7日間の縦覧を経て署名数が確定する。その後、見張り番が条例改正を本請求。市長が意見を付けて市議会に条例改正案を提出する。

阪口代表幹事は「市民に痛みを強いる改革を進めているのに、市議の報酬は市制施行以来、まともに下がったことはない」とし、「今回、市民が自ら署名することも多く、予想を超える署名が集まった。7千人という数は、市議会も決して無視できないと思う」と話している。



生駒市議の定数と報酬の削減を目指して集めた署名を市選管に提出する阪口保代表幹事（右端）ら＝生駒市役所